

港支部報

MINATO

2003/4

No.74

発行 / (社) 東京グラフィックサービス工業会 港支部

CONTENTS

「支部行事」に積極的な参加を！ - 椎名支部長 -	2
東グラ事業活動の活性化と大森新執行部について - 増田副支部長 -	3
支部活動報告（正副支部会長会議より）	4
港支部役員名簿（案）	6
東京グラフィックス本部委員会派遣委員（案）	7
次世代の会より	8
俳句「雑感」 - 臼井白月 -	10

東京グラフィックスのホームページが全面リニューアルしました

<http://www.tokyographics.or.jp/>

「会員ページ」のIDとパスワードにつきましては、本部より会員の皆様に個別に圧着ハガキでお送りしましたので、ご利用下さい。



「支部行事」に積極的な参加を！

港支部長 椎名敏男

私達の印刷関連業界を取り巻く環境は大きく変化し、これが大変に厳しいものとなっております。国の「中小企業施策」は従来の「護送船団方式」から、「本当にやる気のある個別企業の支援」にシフトされました。

この時代の変化を受けて、個々の企業も、私達自身も、それぞれが変わらなければなりません。確実に一歩も二歩も新たな時代に踏み込んだのです。もう昔のやり方では顧客のニーズに対応ができなくなっています。

かつて、注文の電話が鳴ってから、顧客の用意したお仕事を戴きに行く、個々には私達からその仕事に対し何の提案もありません、単なる文字の詰め物が商品になっていたのです、「軽印刷業界」の営業はこれを、商品としての価値感を提案し、競争の上で顧客から注文を勝ち得てくる経験をする必要がなかったのです、このような環境で育ってきたことが、ある著名の講師をして「印刷営業は、営業マンではなく、メッセンジャーボーイだ・・・」と云わしめた所以であります。

同業者間の競争は、決して価格だけではありません。しかし同業者それぞれが、皆同じものを同じ方法で提供し、同じ顧客対応をしていたら、ここで起こる競争は「価格」しかありません。

業界の仲間を真っ向から競争相手とするのではなく、これからの印刷業界での「生き残り戦略」は、IT時代に情報活用のエキスパートとして、新ビジネス、新マーケットを切り開いて行くために、そしてこの仲間とは、印刷関連業のみならず、企画、デザイン、プリプレス、情報処理・加工、マルチメディア、ITまで、「印刷を“核”とした情報活用」に携わる人達と「ビジネスパートナー」としてこの仲間とのコミュニケーションの中からお互いの学びあうべきです。

そのために、その「軸」になるのが、東京グラフィックサービス工業会であり、そして「港支部」なのです、今後はますます皆さんと親しく、有意義な支部運営を進めて行きたいと思ひます、今後開催される「支部行事」には積極的なご参加を、お待ちしております。

東グラ事業活動の活性化と大森新執行部について

～15年度事業担当理事（教育・技術）として～
副支部長 増田 光仁

御承知の通り現在東京グラフィックスは、業界活動の活性化と会員減に如何に対処していくかが大きな課題になっています。

経営環境の悪化に伴う厳しい会社経営の中で、業界活動をお願いする役員・委員の皆さんの御苦勞を想いながら心を重くしています。

しかしながら、一面、この機会だからこそ業界活動を見直し、義務的な業界活動からの脱皮と求められる業界活動を創る良い機会とも考えています。

国の施策の変更により、我が業界も先年より補助金依存事業からの脱皮のために知恵を絞っている処ですが、その回答を求めて苦闘しています。しかし、その苦闘の中にこそ、先ほどの業界活動の見直しがあり、求められ且つ必要とされる業界の創造に繋がることかと考えています。

言い古された表現で恐縮ですが、護送船団方式による集団安全保障から自らの事業基盤の見直しと、新しい事業基盤の確立のために新しい組織及び人的なネットワークの構築と運動の創造が求められています。

今、経営革新が叫ばれ、新しい事業の創出が求められていますが、現在の経営環境は、ややもすると会員同士が心ならずも旧来のパイの奪い合いにしのぎを削らざるを得ない状況にあり、柵からボタモチ式な旧来の受けの姿勢ではその回答は掴み出せないと考えています。

ここで大森新執行部は、会員の知恵を結び合わせ、“会員のための事業構築”に向け、アイデアを知的資産に高める新事業の創造に踏み込もうとしています。他人の知恵に頼り待つのでは無く、自ら参加することを通してよりよい事業基盤の確立を計る、会員ネットワークの構築のためWebの整備を急いでいます。

ここで私は、小集団グループによる多様な事業の模索の中に、将来の東グラの事業の展望を見出したいと考えています。ジャグラにおける東京地協の独立と東グラにおける港支部の活動を通して、先輩が築いてこられた「伝統ある港支部」が、新しい業界活動の先鞭をつけられたらと考えています。

会員の皆様のアイデアと知恵と強力なネットワークを、業界活性化のキーワードとして新しい活動を創造していきたいと思えます。

支部活動報告

～ 正副支部長会議より ～

日 程

- 3月17日（月）午前11時30分～午後1時30分 （於・東京プリンス ビラ）
 - ・支部長、副支部長・増田光仁氏と会合。平成14年度定時総会、行事の日程について打ち合わせをしました。
- 4月2日（水）港支部正副支部長会 午後6時～ （於・ロンダ／出席8名）
 - ・支部役員、本部委員を選任。（別表参照）
 - 1) 各正副支部長が分担して、支部役員、本部委員の委任の了解を得る。
 - 2) 4月10日(木)支部役員幹事会までに決定。
 - 3) " " の開催案内を役員各位にFAX。
- 4月7日（月）東京グラフィックス理事会
- 4月10日（木）港支部役員幹事会 午後6時～ （於・虎ノ門パストラル／出席15名）
 - ・次年度港支部役員・幹事の決定
 - ・定時総会のスケジュールの設定、役割分担の設定。
 - ・港支部役員名簿、港支部慶弔規定の作成の検討。
 - ・班編制の内容の見直し・検討。（数のバランス）
- 4月14日（月）機関誌・港支部報、総会開催案内の発送
 - ・機関誌は増田氏が編集、白石氏が印刷
- 5月8日（木）港支部正副支部長会 午後6時～ （於・ロンダ）
 - ・決算報告書
 - ・出席者名簿、席順
 - ・プログラム
 - ・お土産
 - ・アトラクション
- 5月15日（木）港支部平成14年度定時総会 午後5時～ （於・虎ノ門パストラル）
- 5月31日（土）東グラ平成14年度定時総会

報告事項

会員の近況

新入会

(有)カラーズ 平原 篤 邦 氏

港区赤坂8-12-7 TEL 5413-6720

(入会の経緯) 日本電子製版工業会とジャグラの合併により港支部に入会され、支部長が表敬訪問をした。

役員の変更

(株)文生社 代表取締役 白石 伴 実 氏 (H15年3月1日)

退会

(株)おきな印刷工房 平 沢 清 氏 (H14年11月)

(株)十 印 勝 田 美保子 氏 (H15年1月22日)

麻布プリント社 木 村 直 氏 (H15年3月)

港支部ゴルフ同好会「みなとクラブ」定例会の開催

4月24日(木) 午前8時30分スタート

(於 取手国際ゴルフ場)

東京グラフィックサービス工業会・定例ゴルフ大会

を本年は「港支部」が担当します。

6月6日(金) 8時18分 取手国際ゴルフ場 16組(64名)

港支部副支部長・八田 奉氏が総責任者として運営します。皆さんのお手伝いをいただきたく思います。大いに参加して、応援をして下さい。

勉強会の予定

(案1) 「より良い金融機関のつき合い方と賢く使おう公的資金」

講師：山本 功氏 中央区商工課 経営相談員(経営士)

(案2) 「昨今の印刷業界環境と今後の見方」

講師：斎藤 成氏 東京グラフィックス 専務理事

当勉強会は、近日中に講師、会場の日程等を図り設定いたします。ご参加下さい。

平成15年度 港支部役員名簿（案）

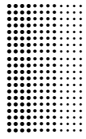
平成15年4月10日

支部役職	会社名	氏名	支部内業務	本部役職
支 部 長	(株)セイノーグラフィックス	椎 名 敏 男	支部活性化と統括	東グラ理事
副 支 部 長	ア イ ワ 印 刷 (株)	八 田 奉	第4班担当 副支部長統括	
副 支 部 長	(株)K M I ネットワーク	増 田 光 仁	第2班担当 会計担当	東グラ常任理事 教育・技術担当
副 支 部 長	(株) ミ ッ ク	大 友 勝	第5班担当	東グラ共済会委員
副 支 部 長	(株) キ ン コ ー	及 川 聡		東グラ マーケティング委員
副 支 部 長	(株) 文 生 社	白 石 伴 実	次世代の会代表幹事	東グラWeb委員 次世代の会幹事
支 部 監 査	(株) 三 州 社	小 山 寛 爾		ジャグラ相談役
幹 事	(株) 東 京 技 術 協 会	鈴 木 将 人		東グラ情報技術委員
幹 事	(株) サ ン ア セ ン ト	木 村 輝 国	第3班担当	
幹 事	仰 光 社 (有)	矢 島 友 昭		東グラ 総務・組織委員
幹 事	(株)ベストプリンティング	坂之上 哲	諸行事実行補佐	
幹 事	(株) 三 進 社	大 野 勝 義	"	
	(株) カ ラ ー ズ	平 原 篤 邦		東グラ カラーデジタル委員
顧問相談役	(株) 文 生 社	白 石 勲		東グラ相談役
顧問相談役	(株) ハ イ ビ ジ ネ ス	臼 井 幸 男		
事業相談役	(有) 日 刊 印 刷	吉 田 正 三	第1班担当 港工団連副会長	東グラ幹事
事業相談役	麻 布 プ リ ン ト 社	木 村 直		

平成15・16年度 東京グラフィックス本部委員会 派遣委員 (案)

平成15年4月10日

委員会名 / 概要	氏名 / 会社名
<p style="text-align: center;">Web委員会</p> <p>会員相互の通信ネットワーク活用促進、東京グラフィックス・ホームページのコンテンツ充実・更新、各種情報提供、業界のPR活動、Eラーニング事業、Web機材展への協力</p>	<p>小山 明弘／(株)三州社 白石 伴実／(株)文生社 富田 隆司／(株)ビフィット</p>
<p style="text-align: center;">マーケティング委員会</p> <p>「マーケティング」の重要性・実践方法の啓蒙、顧客ニーズ（印刷市場）調査、次世代の会との連携、自費出版の研究</p>	<p>及川 聡／(株)キンコー 深海 正洋／(有)エムツークリエイト</p>
<p style="text-align: center;">環境・経営委員会</p> <p>原価意識高揚、官公需入札制度の改善、労務環境整備、ISO9000・14000の研究、高齢者就業等雇用関係、事業継承、公害防止、資源リサイクル</p>	<p>柳町二千勝／(株)三進社</p>
<p style="text-align: center;">教育・技術委員会</p> <p>能力開発、営業マン教育、各種オペレータ教育、技術セミナー、デジタルワークフローの研究、メーカーとの連携、教育機関との連携、知的財産権の研究</p>	<p>鈴木 将人／(株)東京技術協会 佐野 紀雄／(株)ダイシン印刷サービス</p>
<p style="text-align: center;">総務・組織委員会</p> <p>機関誌「月刊・東京グラフィックス」の発行、会員実態・ニーズの徹底調査、組織の拡充、会員名簿作成、作業交流の実践、都民への印刷技術の啓蒙</p>	<p>矢島 友昭／仰光社(有)</p>
<p style="text-align: center;">カラー・デジタル委員会</p> <p>会員企業の印刷のカラー化の推進、グラフィックサービス工業に適したCMS（カラー・マネジメント・システム）の研究・開発</p>	<p>平原 篤邦／(株)カラーズ</p>
<p style="text-align: center;">共 済 会</p> <p>野球・ソフトボール大会、ボウリング大会、釣り大会、ゴルフ大会、バスツアー、ハイキング、火災・自動車共済</p>	<p>大友 勝／(株)ミック 木村 輝国／(株)サンアセント</p>



ネットワークを生かして情報の共有を

白石伴実 / (株)文生社

インターネット・・・ほんの10年前には言葉すらほとんど知られていませんでしたが、現在は、国内のインターネット利用者が6,942万人（総務省 平成14年通信利用動向調査）と、2人に1人はインターネットを利用しているそうです。世帯普及率に至っては81.4%、事業所（従業員規模5人以上）／企業（従業員規模100人以上）ベースでは79.1／98.4%（同）と、利用していない家庭・企業を探す方が難しいほどです。

なぜインターネットがこれほどまでに爆発的に普及したのか・・・理由はいろいろあるでしょうが、なんといっても「双方向性」と「ヨコのつながり」すなわち「情報の共有」ということに尽きるのではないのでしょうか。

卑近な例で恐縮ですが、例えば新しいCDプレーヤを買おうとしたときに、とりあえず狙った商品をWEBで検索してみる、するとメーカーのカタログページやWEB通販などに混じって、「A社の〇〇は初期不良が多い」「B社のは値段以上に作りがしっかりしている」といった、いわば「生の声」が拾えたりします。

ここで大事なのは、「生の声」も含めたいろいろな情報を提供する人がいる、また自分からも提供することができる（＝双方向性）故に、その積み重ねで膨大な情報量になっているということと、それらが互いにリンク（＝ヨコのつながり）され「共有」されていることで、ただの未整理な情報の山（いわゆる「ゴミ」ですね）ではなく、「生きた情報」になり得ているということです。

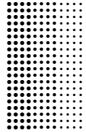
「双方向性」と「ヨコのつながり」、これは私たちの仕事や組合活動でも同じことが言えると思います。ただ組合に籍を置いて、送られてくる会報を読んだり読まなかったりではなく、ネットワークに自ら積極的に参加し、自らの情報を提供しつつ、新しい情報を吸収していく、その中で「勝ち残っていく」ためのヒントが得られるのではないか——これは私としてはまだ「確信」ではなく「期待」ですが——そう思います。

5年ほど前に、次世代の会の支部幹事を仰せつかりましたが、その責任をなかなか果たせないまま数年が過ぎ、一昨年よりやっと、懇親会とメーリングリストによる情報交換を中心に動き始めました。

現在、次世代の会には12社18名が参加しております。皆、それぞれの会社の中核として動いている方たちですので、集まるための日程の調整からして難航してしまう状況ですが、

「これからの我が社、これからの業界の担い手」の自覚で、共々に頑張っていきたいと思
います。

4月中には懇親会を予定しております。詳細は別途ご案内致しますので、次世代の会の
メンバーの皆さん、奮ってご参加下さい。また、各社の社長様におかれましても、メン
バーの押し出しをよろしくお願い致します。



デフレ時代の今

及川 聡 / (株)キンコー

デフレ時代の今、支部の催しに参加するどころではない。いつ終わるかわからないこの時
代を生き残っていかなくてはならない。支部活動に参加するどころか、会費を支払うのもも
ったいない。できたら退会したいと考えられている方は少なくないのではと思われます。
そして、支部活動に参加するメリットは何かあるのかと疑問を持たれている方もいると思
います。

それでは、支部活動（特に港支部）に参加するメリットはなにかというと、私は人間関
係を広げ活用することだと思います。

当支部には、厳しい時代を生き抜き、生き残ってきた先輩方がたくさんいらっしゃいます。
生き残ってこられたのは、運と実力ですが、運は確率ですので、その確率を高める方法な
どいろいろな助言を受けられるとおもいます。もちろん、諸先輩それぞれ異なったご意見
もあると思われますが、その中で自分に合ったヒントとなるものはあるのではないでしょ
うか。

売上げが減った。保証協会の枠も一杯になってしまった。リストラをやらなくてはなら
ない。リストラをやったが問題がおきた。などの昨今の諸問題の解決の一助に支部活動が
なればと考えております。かくいう私も、今後はわかりませんが、なんとか生き残りた
いと思っています。

支 部 報 原稿募集

支部報を支部会員相互の交流の場として、支部活動の活性化に
役立てたいと思っております。原稿は支部への要望、提言、主
張、趣味、詩・俳句・短歌、感想、随筆、経営上のヒントなど、
なんでも結構ですので、下記編集部までお寄せ下さい。

〒106-0032 東京都港区六本木3-4-15 (株)文生社内
支部報編集担当 白石伴実
FAX : 03-3582-0108 Email : bunsei@ma.rosenet.ne.jp

